

教育目標

心豊かに充実した生活を送ることができる子どもの育成
～自ら学ぶ力、自ら律する力を育む～

年度末の最終評価**自己評価** **教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し**

それぞれの発達年齢に応じた育ちがみられた。4歳児は友達とのかかわりの中で一緒に遊びを進めようとするようになってきた。5歳児は、仲間と共通の目当てをもち、遊びを深めたり相手の思いを受け入れたりするようになってきた。次年度はさらに研究面で深めていき、保育実践に生かしていきたい。

学校関係者評価 **学校関係者による意見・支援策**

幼児期の様々な体験や経験は大切である。幼稚園では子どもたちが色々な経験の中で育っていることがわかる。子育てに関して保護者にも必要なことはしっかりと伝えていってほしい。何かできることがあったサポートはしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月19日（金）	学校運営協議会
最終評価	平成31年3月13日（水）	学校運営協議会

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する **保育の改善・充実****具体的な取組**

- 子どもたちが主体的にかかわり、遊び込む姿が見られる保育を目指し、子どもの心の動きや変容を捉え、環境、援助などを研究保育やエピソードから検証し、日々の生活の環境や援助を見直していく。
- 教育要領の「3つの資質・能力」の視点でも子どもたちの姿を分析していく。

（取組結果を検証する）各種指標

- 園内研究での事例検討、週案の評価・反省により子どもの姿から教師の援助や環境構成を見直し保育にフィードバックする。（PDCA, カリキュラムマネジメント）
- アンケート項目「子どもは喜んで幼稚園に通っている」「子どもは自分から遊びを見つけて夢中になって遊んでいる」「幼稚園は子どもが夢中になって遊べる環境を整えたり援助をしたりしている」

中間評価

自己評価	各種指標結果 - 園内研究での事例検討では、年度当初に共通理解した、教育要領の「3つの資質・能力」の視点を意識して分析していくことができた。 - アンケート項目については、3つの項目すべてにおいて、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると100%であった。
	分析（成果と課題） 1学期～夏休みまでの事例検討では、子どもの姿を分析する過程で様々な育ちや課題を共有し環境や援助を検討した。その中で、「3つの資質・能力」の視点で色分けして分析すると、時期や学年による発達の特徴がみられ、今後の保育の見通しとして検討していく必要がある。 - アンケート結果は良好であったが、より幼稚園教育の理解を深めるようにしていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 - 子どもの主体的に遊ぶ姿を丁寧に見とり、環境構成、援助なども含めその姿の要因も探っていきたい。 - 後期は、「3つの資質・能力」から「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の分析へとつなげていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 事例検討や週案によるカリキュラムマネジメントを保育により生かせるようにしていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 - アンケートの結果が良好で、子どもたちがのびのびと遊んでいる明德幼稚園らしさが伝わってくる。 - 主体的な遊びが大事なことであることはわかるが、伝わりにくい部分もある。保護者や一般に理解してもらう効果的な方策を検討する必要がある。

最終評価

自己評価	中間評価時に設定した各種指標結果 事例検討による研究は継続的にできた。事例の記述では、「3つの資質・能力」の視点で色分けしたものを集約し、結果から発達年齢による姿が見えてきた。保育記録をとることで保育の改善につながるがあったが、それをカリキュラムマネジメントとして週案に十分に生かしきれていないので課題が残った。
	分析（成果と課題） アンケートの結果は、前期と同じ項目であったが、年少の「子どもは喜んで幼稚園に通っている」は98%が「そう思う」「だいたいそう思う」で、それ以外はすべて100%が「そう思う」「大体そう思う」であった。
	分析を踏まえた取組の改善 2%の結果「そう思わない」については、改善策について家庭と連携をはかり取り組んでいるところである。 - 週案のカリキュラムマネジメントとして日々の保育に生かし教育実践の足跡を残せるようにしていきたい。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケート結果によると達成状況は良好であるが、園内研究としてはさらに深めていく必要がある。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケートの結果からは、保護者が満足していることが良くわかる。引き続き、家庭との連携を密にして、取り組んでいってほしい。
---------	--

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

具体的な取組 - 近隣の小学校への保育公開，小学校の授業参観，研究授業参観。 - 保幼小連携会議への参加。 「親子で絵本！」の活用度を，定期的に点検，把握，改善。
（取組結果を検証する）各種指標 - 保育公開の参加回数，小学校の授業参観，研究授業参観の参加回数。 - 保幼小連携会議への参加回数と協議内容。 - 交流事業の実践結果。 - アンケート項目「読書ノート“親子で絵本”は活用できている」

中間評価

	各種指標結果 - 小学校の休日参観の参観，近隣の小学校の運動会参観，中学校との交流などで教師間の連携ができた。子どもの姿を話すことで，それぞれの発達について共有する機会となった。 - アンケート項目については，「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると70％程度であったが，年長の方がわずかだが高かった。
自己評価	分析（成果と課題） - 小学校の参観では，1・2年生の姿について話す機会をもち，子どもの姿を話すことで，それぞれの発達について共有する機会となった。中学校の教員と幼児の実態について話し合ったことが授業交流に生かしている。 - アンケートの結果からは，親子読書ノートを活用することの意義について，なかなか広がらない。 分析を踏まえた取組の改善 - 後期には小学校の自由参観や学芸会，研究発表等を参観し，幼小連絡会が開催されると思われるので出席することにより，小学校との連携を深める。 - 親子読書ノートの活用の意義について，機会を見て伝えていく。 （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 - 小学校との参観や連絡会への出席。 - アンケート項目「読書ノート“親子で絵本”は活用できている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 - 小学校との連携をより大切にしていってほしい。 - 親子読書の大切さを，小学校の学びにもつながるという視点からも伝えてはどうか。

最終評価

	中間評価時に設定した各種指標結果 ・小学校の参観や連絡会へ出席することで、小学校の様子を聞き、子どもたちの成長した姿がみられる機会となった。 ・アンケート項目「読書ノート“親子で絵本”は活用できている」については、「そう思う」「大体そう思う」が前期よりも下がる結果となった。年少・年長とも前期が70%前後であったが、後期は50%前後となった。
自己評価	分析（成果と課題） ・アンケートの結果については、保護者には親子読書の大切さをアピールしたにもかかわらず、数値が下がった。 ・小学校の参観や連絡会に出席することで、子どもの成長や小学校での生活がわかった。 分析を踏まえた取組の改善 ・次年度もできる限り小学校の参観や公開授業、連絡会への参加を継続していく。 ・「読書ノート“親子で絵本”」の活用を推奨していく。 重点目標の達成状況、次年度の課題 ・「読書ノート“親子で絵本”」の活用については引き続き、その大切さについて認識を深めてもらえるように伝えていく。 ・小学校との連携については継続するとともに、幼稚園教育についても伝える機会を設ける。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学校との連携は大切である。継続して行ってほしい。 ・親子読書については保護者にもっと関心をもってもらえるように、方法を考える必要がある。

（３）自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

	具体的な取組 ・子どもたちが、体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるような環境や援助の工夫を保育計画の中で立案する。 ・幼稚園の生活が分かり、生活習慣が身に着くように家庭とも連携を図りながら見守りや援助をする。
	（取組結果を検証する）各種指標 ・子どもの姿の記録やその検証、週案の計画、反省、評価の記述。 ・アンケート項目「子どもは体を動かして遊ぶことが好きである」「子どもは身の回りのことを自分でしようとしている」「家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている」

中間評価

	各種指標結果 ・アンケート項目「子どもは体を動かして遊ぶことが好きである」「家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている」については、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると年長、年少とも100%、「子どもは身の回りのことを自分でしようとしている」「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると95～6%であった。
--	---

自己評価	分析（成果と課題） ・子どもの姿からは、体を動かすことが好きな子どもと、室内での制作や積み木遊びなどが好きな子どもがある。思い切り体を動かす楽しさをより感じられるようにしていく必要がある。 ・アンケート結果は良好であった。年少、年長で差異はなかった。生活習慣面では「だいたいそう思う」の割合が多かったので、さらに家庭との連携を図って取り組む必要がある。
	分析を踏まえた取組の改善 ・運動会を通して取り組んできたことも継続し、体をうごかす心地よさを感じられるように保育の中に取り入れていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・生活習慣については保護者の意識は１００％であったので、今後は家庭との連携をより密に図り取り組んでいきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・運動が好きな子どもが地域にはたくさんいる。明德幼稚園出身の子どもは公園でも走り回って元気に遊んでいる姿を見かけた。 ・これからも保護者がしっかり意識して、子どもに生活習慣が身につくように働きかけてほしい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 ・アンケートの結果は、３項目とも「そう思う」「大体そう思う」合わせて１００％であった。	
自己評価	分析（成果と課題） ・アンケート結果では、特に生活習慣の項目、「家庭では生活習慣が身につくようにかかわっている」「子どもは身の回りのことを自分でしようとしている」については、「そう思う」の割合が、前期よりも年長・年少とも増加していた。家庭でも、進級や進学を意識してかかわっていることがわかる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、体をうごかす遊びや基本的な生活習慣について、充実させていきたい。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 ・次年度は、小学校校庭を借りて実施する運動会について、校庭の使用できる限られた時間で取り組むので、運動量の確保について工夫が必要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・生活習慣は家庭との連携が大切である。家庭の意識が上がってきたのはよいことだと感じた。

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組

- ・教師との信頼関係づくり。
- ・発達に応じた人間関係づくりと、友達関係の中での自分の気持ちを調整する力や育ちの芽生えをとらえる。
- ・自己肯定感を育む援助や支援を大切にしたい保育実践。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの姿，エピソード研修，週案の記録。
- ・アンケート項目「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」「子どもは先生や友達とかかわり一緒に過ごすことを楽しんでいる」「幼稚園は一人一人を受け止め良いところを認め援助している」

中間評価

各種指標結果

- ・子どもの姿を研究会や日常の情報交換をする中で，子どもの葛藤する姿や，その中での成長を感じた姿などを共有することができた。
- ・アンケート項目については，アンケート項目については，「子どもは先生や友達とかかわり一緒に過ごすことを楽しんでいる」「幼稚園は一人一人を受け止め良いところを認め援助している」については「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると１００％，「子どもは自分の思いを素直に出そうとしている」については，「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると９８％，年長，年少とも差がなかった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・一人一人の子どもの心を大切にしたい保育実践が，子どもの姿に生きていると思われる。またそのことが，保護者の安心感になり，子どもの心の安定につながっていると思われる。
- ・アンケート結果は良好であった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・今後引き続き一人一人を大切に，個々の実態に応じた保育実践を重ねていきたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿，エピソード研修を深める。アンケート項目については前期と同様。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域とのかかわりの中で育つ部分があれば協力したい。
- ・運動会の様子から，教師が一人一人に丁寧にかかわっていることが分かった。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・アンケートの結果は，「子どもは先生や友達とかかわり一緒に過ごすことを楽しんでいる」「幼稚園は一人一人を受け止め良いところを認め援助している」については，前期と同様「そう思う」「大体そう思う」を合わせて１００％であった。

自己評価	分析（成果と課題） ・保護者アンケートでは，前期と同様，高い評価を得ていた。 ・引き続き，子どもたちの心に寄り添い，援助し，保育を充実させていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・保育記録や園内研究からも一人一人の子どもの姿，発達，育ちをしっかりと把握し，育ち合える保育を展開していく。
	重点目標の達成状況，次年度の課題 ・保育の中でのいろいろな経験が心の育ちや育ち合いにつながるよう，意味を抑えて取り組んでいきたい。 ・これからも子どもとの信頼関係のもと，個々に応じた援助をし，発達を支えていくようにする。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・学校運営協議会が参画しているお茶会でも，１年間を通して年長児の育ちが感じられた。引き続き，できることは協力していきたい。